

国際取引トピックス

# 激変する 中国インターネット経済事情



企業間取引拡大推進員  
時任 毅

中国でのスマホを使った第三者決済サービスの普及状況を現地調査するため、今年1月に上海と北京を訪れていたのですが、その便利さに驚きました。

中国のネット通販最大手の阿里巴巴集団（アリババグループ）と騰訊控股（テンセント）が開発した「Alipay（アリペイ）」と「WechatPay（ウィチャットペイ）」は、この2年間で、中国全土で凄まじいスピードで普及しています。今の中国は、いつでも、どこでも、何でもスマホで支払えるようになっています。

上海のタクシーを呼んでもなかなか来ないのは上海ではよくある光景ですが、アリペイと連携している「滴滴打車（ディディダーアチャー）」を使うと、周辺にいるタクシーを車種ごとに表示し、行く場所までの料金を明確に知らせてくれます。おおよそ5分ほどで指定されたタクシーが到着。支払はアリペイでQRコードを読み取ることで完了。下車後には、タクシー運転手に対して、匿名で評価することもできます。

上海の駐車場では、入庫時に入口のところにあるカメラの前で1秒ほど一時停止、駐車カードを取らずに、そのまま車庫へ。出庫時には、出口にあるカメラの前で一時停止すると、車のナンバーが表示され、自動的に駐車料金が支払われます。実は既にその車と顔認証が登録されていたので、ドライバーのアリペイとリンクして、入出庫するたびに自動的にオンライン決済されます。

上海のホテル内で食事をするには、中国最大の出前アプリ「饿了么（アールマ）」を使います。数千種類の料理が写真付きで表示されていて、店名、単価、配送所用時間、割引情報などが詳しく羅列し、好みによってスムーズに選択ができ、深夜でもホテルの部屋まで料理が届きます。食事後は、お店を評価することが簡単にでき、クレーム受付電話は24時間有人で対応しています。

更に驚いたことは、料理以外にも、常備薬、化粧品、生理用品、生花、サプリメントなどをすぐに宅配可能となっている点です。

「外売（ガイバイ）」と呼ばれる売り場を通さずに顧客に直接商品の販売をするビジネスモデルが普及した最大の理由は、消費者、レストラン、配達員などの関係者全ての信用をスマホツールによってしっかりと繋げたことです。2018年の中国外食産業の規模は約76.5兆円（4兆5000億元 《2016年中国外売O2O業発展報告》/中国のリサーチ会社iResearch）に達するとの予測もあります。

便利ではありますが、データ資源問題も浮上しています。14億人の巨大市場を抱える中国では、5億人が使うスマホ決済のアリペイは毎秒2,000件も決済情報をサーバーに蓄積しています。AI（人工知能）の前提はビッグデータです。データを集めることが最も重要です。「膨大なデータは現代の石油だ」とアリババの馬雲会長も言っています。

今後、中国の「アリババ」がもたらす衝撃によって、日中の消費市場がつながり、競争が活性化され、改革が進むことを期待しています。

